

第3回腫瘍内科医会セミナープログラム

企画テーマ 「腫瘍内科医はなぜ必要か」

日時：平成24年4月15日（日曜日）（日本内科学会総会・講演会会期中）
腫瘍内科医会・総会（午前11時～12時） セミナー（午後1時～3時50分）
会場：京都市勧業館 みやこめっせ 地下1階 特別展示場
対象：日本内科学会または日本臨床腫瘍学会会員（参加費無料）

主催：北海道の総合力を生かすプロ養成プログラム、北東北における総合的がん専門医療人の養成、東北がんプロフェッショナル養成プラン、関東広域多職種がん専門家チーム養成拠点、北陸がんプロフェッショナル養成プログラム、高度がん医療を先導する人材養成拠点の形成、6大学連携オンコロジーチーム養成プラン、銀の道で結ぶがん医療人養成コンソーシアム、中国・四国広域がんプロ養成プログラム、九州がんプロフェッショナル養成プラン、腫瘍内科医会（平成24年4月から以下に変更予定）

北海道がん医療を担う医療人養成プログラム、東北がんプロフェッショナル養成推進プラン、国際協力型がん臨床指導者養成拠点、次世代がん治療推進専門家養成プラン、ICTと人で繋ぐがん医療維新プラン、がん多職種チーム医療者の体系的段階的養成、都市型がん医療連携を担う人材の実践的教育、北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プラン、次代を担うがん研究者・医療人養成プラン、7大学連携先端的がん教育基盤創造プラン、中国・四国高度がんプロ養成基盤プログラム、九州がんプロ養成基盤推進プラン、腫瘍内科医会

腫瘍内科医会運営委員：

相羽 恵介、秋田 弘俊、*石岡 千加史、磯部 威、西條 康夫、佐々木 康綱、白尾國昭、柴田 浩行、関 順彦、醍醐 弥太郎、滝口 裕一、谷本 光音、田村 和夫、鳥本 悦宏、中川 和彦、南 博信、元雄 良治、矢野 聖二、西岡 安彦、柳原 一広、吉岡 孝志
（*運営委員代表）

腫瘍内科医会・総会（午前11時～12時）

腫瘍内科医会セミナー「腫瘍内科医はなぜ必要か」（午後1時～3時50分）

開会挨拶：石岡 千加史（東北大学）

ご挨拶：細谷 龍男先生（日本内科学会監事・次々期会頭、東京慈恵会医科大学 腎臓・高血圧内科 教授）

企画1：(午後1時10分～2時35分)

司 会：滝口 裕一(千葉大学)、西岡 安彦(徳島大学)

1. 話題提供—実例から課題を提起—(10分)

帝京大学医学部内科学講座 腫瘍内科 准教授 関 順彦

2. 基調講演—腫瘍内科の必要性—(20分)

東京慈恵会医科大学内科学講座 腫瘍・血液内科 教授 相羽恵介

3. パネルディスカッション「腫瘍内科はなぜ必要か」(55分)

パネリスト：

相羽恵介(東京慈恵会医科大学内科学講座 腫瘍・血液内科 教授)

小嶋修一(TBSテレビ報道局ディレクター)

天野慎介(特定非営利活動法人グループ・ネクサス理事長・がん対策推進協議会委員)

村田善則(文部科学省高等教育局 医学教育課長)

郷内淳子(「患者発・宮城版退院時サポートプロジェクト」代表)

関 順彦(帝京大学医学部内科学講座 腫瘍内科 准教授)

前村 聡(日本経済新聞社東京本社 編集局社会部 記者)

(休憩 午後2時35分～2時50分)

企画2：(午後2時50分～3時00分)

司 会：醍醐 弥太郎(滋賀医科大学)

腫瘍内科教室紹介(10分)

近畿大学医学部内科学講座 腫瘍内科部門 教授 中川和彦

企画3：(午後3時00分～3時40分)

司 会：田村 和夫(福岡大学)

教育講演 —抗悪性腫瘍薬と臓器障害—

「薬剤性肺障害をめぐって」(40分)

日本内科学会理事

信州大学医学部内科学第一講座 教授 久保 恵嗣先生

閉会挨拶 高後 裕(旭川医科大学) (午後3時40分～)



腫瘍内科医は なぜ必要か

第3回

腫瘍内科医会セミナー

日時：平成24年 **4月15日** (日)
(日本内科学会総会・講演会会期中)

会場：京都市勧業館 みやこめっせ 地下1階 特別展示場
(京都市左京区岡崎成勝寺町9-1)

対象：日本内科学会または日本臨床腫瘍学会会員 (参加費無料)

プログラム

1. 腫瘍内科医会・総会 (午前11時～12時)
2. セミナー「腫瘍内科医はなぜ必要か」(午後1時～3時50分)

(午後1時10分～2時35分)

企画1

1. 話題提供—実例から課題を提起—

帝京大学医学部内科学講座 腫瘍内科 准教授 関 順彦

2. 基調講演—腫瘍内科の必要性—

東京慈恵会医科大学内科学講座 腫瘍・血液内科 教授 相羽恵介

3. パネルディスカッション「腫瘍内科はなぜ必要か」

相羽恵介 (東京慈恵会医科大学)、小嶋修一 (TBSテレビ報道局)、
天野慎介 (NPO法人グループ・ネクサス)、村田善則 (文部科学省高等教育局)、
郷内淳子 (患者発・宮城版退院時サポートプロジェクト)、関 順彦 (帝京大学)、
前村 聡 (日本経済新聞社) *五十音順で掲載しております。

(午後2時50分～3時00分)

企画2

腫瘍内科教室紹介

近畿大学医学部内科学講座 腫瘍内科部門 教授 中川和彦

(午後3時00分～3時40分)

企画3

教育講演—抗悪性腫瘍薬と臓器障害—
「薬剤性肺障害をめぐって」

日本内科学会理事 信州大学医学部内科学第一講座 教授 久保恵嗣 先生

主催

北海道の総合力を生かすプロ養成プログラム、北東北における総合的がん専門医療人の養成、東北がんプロフェッショナル養成プラン、関東広域多職種がん専門家チーム養成拠点、北陸がんプロフェッショナル養成プログラム、高度がん医療を先導する人材養成拠点の形成、6大学連携オンコロジーチーム養成プラン、銀の道で結ぶがん医療人養成コンソーシアム、中国・四国広域がんプロ養成プログラム、九州がんプロフェッショナル養成プラン、腫瘍内科医会 (平成24年4月から以下に変更予定)

北海道がん医療を担う医療人養成プログラム、東北がんプロフェッショナル養成推進プラン、国際協力型がん臨床指導者養成拠点、次世代がん治療推進専門家養成プラン、ICTと人で繋ぐがん医療革新プラン、がん多職種チーム医療者の体系的段階的養成、都市型がん医療連携を担う人材の実践的教育、北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プラン、次代を担うがん研究者・医療人養成プラン、7大学連携先端的がん教育基盤創造プラン、中国・四国高度がんプロ養成基盤プログラム、九州がんプロ養成基盤推進プラン、腫瘍内科医会

<お問い合わせ先>

東北がんプロフェッショナル養成プラン事務局

〒980-8574 仙台市青葉区星陵町1-1 東北大学病院西病棟2階 TEL:022-717-7087・8010 E-mail:ganpro@med.tohoku.ac.jp

平成24年度第1回腫瘍内科医会・総会

議事次第

日 時：平成24年4月15日（日） 11：00～12：00

場 所：京都市勧業館 みやこめっせ 地下1階 特別展示場

出席者：会員33名予定 顧問1名予定 運営委員16名予定

配布資料：資料1（平成23年度第1～3回腫瘍内科医会運営委員会 議事録）
資料2（腫瘍内科医会運営委員及び顧問名簿、新役員（案）名簿）
資料3（第3回腫瘍内科医会セミナープログラム、チラシ、各大学分担金案）
資料4（腫瘍内科医会新入会員、会員数）
資料5（腫瘍内科医会会則、改定案）
資料6（会費案）

議事：

報告事項

1. 平成23年度第1～3回腫瘍内科医会運営委員会報告（資料1）
2. 役員の所属変更について（資料2）
3. 第3回腫瘍内科医会セミナーの準備状況について（資料3）
4. 各種委員会報告
5. その他

審議事項

1. 新入会員について（資料4）
2. 役員交代、任期更新及び新任について（資料2）
3. 会則の改定について（資料5）
4. 会費について（資料6）
5. その他

平成 23 年度第 1 回腫瘍内科医会運営委員会議事録

日 時：平成 23 年 7 月 20 日（水）18:15～20:10
場 所：パシフィコ横浜（会議センター 4 階 415）

参加者：（運営委員）相羽恵介、秋田弘俊、石岡千加史（議長）、磯部 威、白尾國昭、柴田浩行、関 順彦、醍醐弥太郎、滝口裕一、鳥本悦宏、中川和彦、南 博信、矢野聖二、柳原一広、吉岡孝志、（顧問）江口研二（敬称略）

議題

1. 平成 23 年度の活動について

議長による資料説明の後、第 108 回日本内科学会講演会が 11 月に延期（横浜で 1 日開催）になったことの説明があり、第 3 回腫瘍内科医会は来年度に延期すること（下記）、準備や今後の委員会活動のために平成 23 年 10 月の日本癌学会総会会期中に運営委員会を開催することを決定した。また、前回までの議事録に記載の各種委員会の活動と委員を確認するとともに、各種委員会の活動について更に検討を深めた。

（1）渉外委員会の活動については様々な意見があり、日本内科学会会員として、日本内科学会のサブスペシャリティとしての腫瘍内科学を確立することが最重要課題であり、次期会頭とプログラム委員に働きかけることを再度確認した。これに関連して、江口顧問から、この目標を達成するための具体的かつ戦略的なアクションプランを立て（会頭、プログラム委員会、理事長、理事への働きかけなど）、運営委員が役割分担して目標を定めて行動すべきとの助言があった。これに関連して、本運営委員会の谷本委員（本日欠席）が今年度から日本内科学会理事に就任されているので、谷本委員を通じて情報収集すると共に理事会へのアプローチを調査することになった。なお、この議論で日本医科大学の弦間先生が日本内科学会の理事である可能性が指摘され、本腫瘍内科医会への入会をお願いすることになった（その後、滝口委員の調査で弦間先生は理事ではなく評議員であることが判明した、相羽委員と吉岡委員（現在、日本内科学会評議員）からは先日開催された日本内科学会の評議員会で、第 109 回日本内科学会講演会に貫和敏博先生（東北大学呼吸器内科）と大津敦先生（国立がん研究センター東病院）の司会による腫瘍学のセッションがあることが紹介され（プログラム概要は後日運営委員に配布）、この企画が腫瘍内科医会の働きかけによって実現したわけではないこと、内科学会評議員の貫和教授による企画であろう事が推測されることにより後日、議長が貫和先生に背景を伺うことになった。また、日本内科学会の下部組織である内科専門医会にも関与していく事が必要との意見があり、渉外委員会が調査することになった。

(2) 活動のための財源確保のために、会費を 3,000 円で徴収することを再確認した。また、腫瘍内科医会セミナーの開催のための資金(会場費やポスターなど)をポストがんプロ予算(文科省、未定)に期待するが、不測の事態に備えて、運営委員が関与する他の財源を準備することになった(議長、中川委員、田村委員から申し出があった)。

2. 第3回腫瘍内科医会の開催について

平成23年4月開催予定の第3回腫瘍内科医会を第109回日本内科学会講演会の最終日である平成24年4月15日(日)(会場は京都市勧業館みやこめっせ)に延期すること、企画内容は原則として当初の予定通りで実施することを確認し、プログラム委員会がこれを進めることになった。なお、会場費については、京都大学の柳原委員が調査し本委員会に報告することになった(翌日、柳原委員から、会場費が6万円弱、付帯設備の使用を使用して合計15万円の経費見込みとの連絡があり、運営委員にメールで通知した)。

3. その他

議長から運営委員長(=本会の代表)の改選が遅れたことの説明があり、次期運営委員長(=代表)を選出する方法について話し合われた。その結果、メール会議で選出すること、はじめに立候補を募ること、立候補者がいないときは、運営委員長(=代表)が顧問と相談して候補者を推薦し、運営委員会に諮ることになった。

以上

平成23年度第2回腫瘍内科医会運営委員会議事録

日 時：平成23年10月3日（月） 16:10～17:30

場 所：名古屋国際会議場（1号館4階 143会議室）

（運営委員21名中）

参加予定者：10名

石岡千加史、磯部 威、白尾國昭、関順彦、醍醐弥太郎、
谷本光音、中川 和彦、南博信、矢野聖二、柳原一広、

委 任 状：8名

相羽恵介、秋田弘俊、柴田浩行、田村和夫、鳥本悦宏、
西岡安彦、元雄良治、吉岡孝志

（敬称を略させていただきました）

議 事：

会の冒頭に、出席者及び委任状数を確認し、会則により今回の運営委員会が成立することが確認された。

審議事項

1. 来年度の運営委員会の体制について

- (1) 運営委員長（候補者）の推薦：石岡委員長から、前回の運営委員会で決定した手順、すなわち、現委員長（石岡）が顧問3名と相談し、次期委員長（候補者）を今回の運営委員会に推薦することになった経緯の説明があり、この手続きに従った結果として、谷本光音運営委員（日本内科学会理事）を次期委員長（兼 代表）として運営委員会に推薦する旨の提案があった。出席者全員の賛成が得られ、谷本委員を来年4月の総会に推薦することになった（総会承認により正式に決定となる）。谷本運営委員に新運営委員長（候補者）就任の快諾をいただき、御挨拶の中で、日本内科学会の臓器別体制と腫瘍診療に関する棲み分けが問題になるとの指摘があったほか、大学に腫瘍内科講座を設置していく運動を来年度以降5年間継続されそうながんプロ（文科省）と同調して活動していくことが良いなどの御意見が出された。石岡運営委員長から谷本運営委員に、日本内科学会におけるサブスペシャリテ

ィーに腫瘍を入れてもらうための活動を粘り強く継続してほしい旨の希望が伝えられた。

(2) 運営委員の再任について：石岡委員長から、内規により運営委員の任期は2年で、本来なら平成23年4月に任期切れとなっているが、東日本大震災の影響で運営委員会及び総会が中止になったため、臨時措置として任期を1年間延期している旨の説明があった。なお、来年4月の総会には現運営委員全員の再任と、新委員として弦間先生（日本医大）を推薦することが確認された。

2. 来年度の第3回腫瘍内科医会セミナーについて

前回の運営委員会で決定どおり、平成23年4月に中止になったプログラムを基本的に継承して再度企画することが前回運営委員会に続き再確認された。

3. その他

会則の第7条(1)の記載について、「努める務める」は「務める」の誤りで合うことを確認した（後日、事務局が原本に間違いがないか確認することになった）。

報告事項

1. 下部委員会からの報告

(1) 広報委員会：HP作成のための業者選定中である旨の報告があった。

(2) 財務委員会：会費について3,000円（以前の運営委員会で話し合われた2,000円から+1,000円）の提案があり、次回総会の承認を得て会費徴収することになった。磯部委員から、会員を増やす努力が必要であるとの意見があった。

(3) プログラム委員会：（第3回腫瘍内科医会セミナーについては審議事項2に記載のとおり）。このほか、関委員から、この委員会の活動の範囲についての質問があり、腫瘍内科医会セミナー以外の企画も可能であることが確認された。これに関連して、様々な意見があり、日本内科学会会員（特に診療所の会員）を対象とする腫瘍に関するセミナーの地方開催を企画し、これを谷本委員が内科学会に持ち込んで日本内科学会の活動として検討してもらう方向性で準備することになった。

(4) 渉外委員会：腫瘍内科医会の大きな目標（日本内科学会における腫瘍学の確立）に向かって、来年度の新運営委員長のもとでも継続的に活動していくことが確認された。

2. 全国がんプロ協議会理事会の報告：谷本委員と石岡委員長が理事として参加している協議会の理事会が文部科学省（高等教育局医学教育課の村田課

長他が同席)で最近開催され、9月30日に公開された平成24年度概算要求に記載のとおり、平成24年度以降もがんプロが継続される可能性が高いとの報告があった。財源面で課題のある本会としては共催企画を実施するなど、引き続きがんプロと協調して活動することになった。

3. その他

(1) 第10回日本臨床腫瘍学会学術集会における腫瘍内科の在り方に関するシンポジウムに関して、中川委員(第10回日本臨床腫瘍学会学術集会会長)と南委員から紹介があり、今後のがん薬物療法専門医制度の変化(必修臓器が増える)と併せて課題を整理する必要があるとの意見が出された。

(2) がん専門医制度改革における日本がん治療認定医機構のがん治療認定医が基盤学会(日本内科学会)と専門医学会(日本臨床腫瘍学会)との間に入とうとする位置取りについて、今後とも動向を注視していく事が確認された。

以上(文責 石岡)

平成23年度第3回腫瘍内科医会運営委員会議事録

日 時；平成24年2月18日（土） 15:00～17:00

場 所；DESK@(デスカット)東京日本ビル ミーティングルームM

（運営委員21名中）

参加者：7名

石岡千加史、関 順彦、醍醐 弥太郎、谷本 光音、南 博信
元雄 良治、柳原 一広（50音順、敬称を略させていただきました）

委任状：8名

相羽 恵介、秋田 弘俊、白尾 國昭、柴田 浩行、田村 和夫、
中川 和彦、西岡 安彦、吉岡 孝志（50音順、敬称を略させていただきました）

議 事：

審議に先立って、会則第9条（運営委員会）（8）「運営委員会は出席者数が運営委員の3分の1以上かつ出席者数と委任状数の合計数が運営委員の過半数をもって成立する」により第3回運営委員会は成立した。引き続いて前回議事録が確認された。運営委員長（石岡）が議長となり以下の審議を進めた。

審議事項

1. 総会の議事確認と議事に関する審議

平成24年4月15日開催予定の次回総会の議事を整理した。予定議題は、

（1）運営委員長（代表）交代について、谷本委員を次期運営委員長（兼代表）として推薦することを再確認した。また、運営委員長の交代に伴い、事務局を東北大学から岡山大学に移動する予定であることが石岡運営委員長から説明があった。

（2）運営委員の再任について、現在の運営委員を再任することと弦間委員を推薦することが確認された。

（3）会費について会費を平成24年度から3,000円徴収すること、ただし、3年間の一括の納入の場合は3年分で1,000円ディスカウントして8,000円としてはどうかとの意見があり、財務委員会に提案することになった。

(4) 各種委員会報告では、渉外、財務、広報、プログラムの4委員会から活動状況を総会で説明することになった。

渉外委員会の次年度の課題として、日本内科学会における「腫瘍学」の領域を設置するために、プログラム委員会、会頭および理事会に粘り強く働きかけることが再認識された。次期運営委員長（代表）候補の谷本委員が日本内科学会の理事であり、来年度以降の渉外委員会では新体制での新たな活動を考えることになった。これに関連して、谷本委員（中部支部長）から中国地方では支部会レベルで腫瘍の項目を作っているとの報告があり、どのような経過で取り上げることができたのか詳細を後日報告していただくことになった。また、本日欠席の秋田委員からメールで、高後顧問のアドバイスが紹介され、今後、内科認定医・専門医制度審議会を切り口にしてはどうかとの意見が寄せられた。これに関連して、元雄委員から、消化器病学会ではカリキュラムの総論に腫瘍を入れる方向で検討していることが紹介された。さらに谷本委員からは、コアカリキュラム委員会に委員を送り込むようにするのが大事だとの指摘があった。

財務委員会に関しては、財源を確保する目的で会員を増やす努力が必要であることが話し合われたが、その一方で、年会費を徴収する以上、会員に何かのメリットがないと徴収が難しいのではないかととの意見があり、今後の検討課題となった。

広報委員会についてはがんプロフェッショナル養成基盤推進プランの採択を待って、平成24年度の早い時期にHPを立ち上げること、その際の支出の分担について財務委員会と検討することになった。

(5) その他では、会則の第2条の一部改訂について下記の赤字部分の改訂について審議することになった。なお、第2条に「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」の文言の追加は新がんプロへ移行後の財源確保のため、「全国の医科系大学医学部の腫瘍内科系講座」から「医学部」の削除は付置研究所（金沢大学がん研や東北大学加齢研の講座の場合を考慮しての提案である。

以下、会則第2条と附則の抜粋（赤字は改定案）

「第2条 本会は、がん対策基本法、がん対策推進基本計画並びに文部科学省がんプロフェッショナル養成プランおよびがんプロフェッショナル養成基盤推進プランの趣旨を受け、社会的なニーズである腫瘍内科医養成への対応を行うために、全国の医科系大学医学部の腫瘍内科系講座、分野、診療科、センター、治療室等（以下、大学腫瘍内科系講座等）に所属する教員並びに本会の目的に賛同する個人が連携し、情報交換

並びに諸活動を通じて、①日本内科学会の指定する 8 内科専門領域に、腫瘍内科を新たに設ける。②全国の国公立大学医学部への腫瘍内科学講座(分野)の設置を推進することを目的とする。また、医学部学生や大学院学生の腫瘍内科学(medical oncology)の教育・実習カリキュラム、卒後の腫瘍内科医の養成、腫瘍内科学に関する研究およびがん薬物療法を中心とする腫瘍内科の診療体制の確立、普及とその発展を目指すための事業を実施し、腫瘍内科学の発展を通してがん制圧に寄与する。」

「附則 この会則は、平成 21 年 7 月 1 日から施行する。改定 平成 24 年 4 月 15 日」

2. 第3回腫瘍内科医会セミナーについて

平成 24 年 4 月 15 日開催予定の腫瘍内科医会セミナーおよびランチョンセミナーのプログラムの確認を行った。次いで開催準備状況とプログラムについて、運営委員長から説明があった。これに対して参加委員から意見があり、会場設営プランの変更(部屋の利用を横から縦に、ダブルスクリーンとする、ステージは不要、プロジェクターは京都大学の柳原先生に持ち込みを検討していただく等)後に再見積を取ることになった。また、今回は京都開催のため、招請者や事務員の旅費が例年(東京開催)より大幅に増えることが説明された。さらに、既に今年度予算で京都大学と滋賀医科大学から支出予定のポスター印刷代の他の経費分担については、前回同様に参加大学の事務同士で調整して、なるべく均等にかつこれまでの支出状況を考慮して分担することになった。

報告事項

1. がんプロフェッショナル養成基盤推進プランについて

申請コンソーシアムの状況や来年度へ向けての課題等について意見交換が行われた。

以上 (文責 石岡)

腫瘍内科医会 運営委員(21名) 顧問(3名)名簿

		氏名	所属
1	運営委員	相羽 恵介	東京慈恵会医科大学内科学講座腫瘍・血液内科 教授
2	運営委員	秋田 弘俊	北海道大学大学院 医学研究科臨床腫瘍学分野 教授
3	運営委員 (代表)	石岡 千加史	東北大学加齢医学研究所臨床腫瘍学分野 教授
4	運営委員	磯部 威	島根大学医学部 内科学講座・がん化学療法教育学 教授
5	運営委員	西條 康夫	新潟大学大学院医歯学総合研究科 分子細胞医学専攻 遺伝子制御 教授
6	運営委員	佐々木 康綱	埼玉医科大学国際医療センター
7	運営委員	白尾 國昭	大分大学医学部 臨床腫瘍医学講座 教授
8	運営委員	柴田 浩行	秋田大学医学部内科学講座臨床腫瘍学分野 教授
9	運営委員	関 順彦	帝京大学医学部内科学講座腫瘍内科 准教授
10	運営委員	醍醐 弥太郎	滋賀医科大学医学部 腫瘍内科 教授
11	運営委員	滝口 裕一	千葉大学大学院医学研究院先端化学療法学 教授
12	運営委員	谷本 光音	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 科長 血液・腫瘍・呼吸器・アレルギー内科学 教授
13	運営委員	田村 和夫	福岡大学医学部腫瘍・感染症・内分泌内科 教授
14	運営委員	鳥本 悦宏	旭川医科大学病院腫瘍センター・センター長 教授(病院)
15	運営委員	中川 和彦	近畿大学医学部内科学講座腫瘍内科部門 教授
16	運営委員	西岡 安彦	徳島大学大学院 呼吸器・膠原病内科学分野 准教授
17	運営委員	南 博信	神戸大学大学院医学系研究科内科学講座 腫瘍・血液内科学分野特命教授
18	運営委員	元雄 良治	金沢医科大学医学部腫瘍内科学 教授
19	運営委員	矢野 聖二	金沢大学がん研究所腫瘍内科 教授
20	運営委員	柳原 一広	京都大学医学部大学院探索臨床腫瘍学講座 准教授
21	運営委員	吉岡 孝志	山形大学医学部臨床腫瘍学分野 教授

顧問

1	顧問	江口 研二	帝京大学医学部附属病院 腫瘍内科 教授
2	顧問	高後 裕	旭川医科大学大学院医学系研究科 血液・腫瘍制御内科学分野 教授
3	顧問	曾根 三郎	徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 部長

腫瘍内科医会新役員(案)名簿

		氏 名	所 属
1	運営委員	相羽 恵介	東京慈恵会医科大学内科学講座腫瘍・血液内科 教授
2	運営委員	秋田 弘俊	北海道大学大学院 医学研究科臨床腫瘍学分野 教授
3	運営委員	石岡 千加史	東北大学加齢医学研究所臨床腫瘍学分野 教授
4	運営委員	磯部 威	島根大学医学部 内科学講座・がん化学療法教育学 教授
5	運営委員	西條 康夫	新潟大学大学院医歯学総合研究科 分子細胞医学専攻 遺伝子制御 教授
6	運営委員	佐々木 康綱	埼玉医科大学国際医療センター
7	運営委員	白尾 國昭	大分大学医学部 臨床腫瘍医学講座 教授
8	運営委員	柴田 浩行	秋田大学医学部内科学講座臨床腫瘍学分野 教授
9	運営委員	関 順彦	帝京大学医学部内科学講座腫瘍内科 准教授
10	運営委員	醍醐 弥太郎	滋賀医科大学医学部 腫瘍内科 教授
11	運営委員	滝口 裕一	千葉大学大学院医学研究院先端化学療法学 教授
12	運営委員 (代表兼運営委員長)	谷本 光音	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 科長 血液・腫瘍・呼吸器・アレルギー内科学 教授
13	運営委員	田村 和夫	福岡大学医学部腫瘍・感染症・内分泌内科 教授
14	運営委員	鳥本 悦宏	旭川医科大学病院腫瘍センター・センター長 教授(病院)
15	運営委員	中川 和彦	近畿大学医学部内科学講座腫瘍内科部門 教授
16	運営委員	西岡 安彦	徳島大学大学院 呼吸器・膠原病内科学分野 准教授
17	運営委員	南 博信	神戸大学大学院医学系研究科内科学講座 腫瘍・血液内科学分野特命教授
18	運営委員	元雄 良治	金沢医科大学医学部腫瘍内科学 教授
19	運営委員	矢野 聖二	金沢大学がん研究所腫瘍内科 教授
20	運営委員	柳原 一広	京都大学医学部大学院探索臨床腫瘍学講座 准教授
21	運営委員	吉岡 孝志	山形大学医学部臨床腫瘍学分野 教授
22	運営委員	弦間 昭彦	日本医科大学内科学講座(呼吸器・感染・腫瘍部門) 教授

顧問

1	顧問	江口 研二	帝京大学医学部附属病院 腫瘍内科 教授
2	顧問	高後 裕	旭川医科大学大学院医学系研究科 血液・腫瘍制御内科学分野 教授
3	顧問	曾根 三郎	徳島大学大学院ヘルスパイオサイエンス研究部 部長

第3回腫瘍内科医会セミナープログラム

企画テーマ 「腫瘍内科医はなぜ必要か」

日時：平成24年4月15日（日曜日）（日本内科学会総会・講演会会期中）
 腫瘍内科医会・総会（午前11時～12時） セミナー（午後1時～3時50分）
 会場：京都市勧業館 みやこめっせ 地下1階 特別展示場
 対象：日本内科学会または日本臨床腫瘍学会会員（参加費無料）

主催：北海道の総合力を生かすプロ養成プログラム、北東北における総合的がん専門医療人の養成、東北がんプロフェッショナル養成プラン、関東広域多職種がん専門家チーム養成拠点、北陸がんプロフェッショナル養成プログラム、高度がん医療を先導する人材養成拠点の形成、6大学連携オンコロジーチーム養成プラン、銀の道で結ぶがん医療人養成コンソーシアム、中国・四国広域がんプロ養成プログラム、九州がんプロフェッショナル養成プラン、腫瘍内科医会（平成24年4月から以下に変更予定）

北海道がん医療を担う医療人養成プログラム、東北がんプロフェッショナル養成推進プラン、国際協力型がん臨床指導者養成拠点、次世代がん治療推進専門家養成プラン、ICTと人で繋ぐがん医療維新プラン、がん多職種チーム医療者の体系的段階的養成、都市型がん医療連携を担う人材の実践的教育、北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プラン、次代を担うがん研究者・医療人養成プラン、7大学連携先端的がん教育基盤創造プラン、中国・四国高度がんプロ養成基盤プログラム、九州がんプロ養成基盤推進プラン、腫瘍内科医会

腫瘍内科医会運営委員：

相羽 恵介、秋田 弘俊、*石岡 千加史、磯部 威、西條 康夫、佐々木 康綱、白尾國昭、柴田 浩行、関 順彦、醍醐 弥太郎、滝口 裕一、谷本 光音、田村 和夫、鳥本 悦宏、中川 和彦、南 博信、元雄 良治、矢野 聖二、西岡 安彦、柳原 一広、吉岡 孝志
 （*運営委員代表）

腫瘍内科医会・総会（午前11時～12時）

腫瘍内科医会セミナー「腫瘍内科医はなぜ必要か」（午後1時～3時50分）

開会挨拶：石岡 千加史（東北大学）

ご挨拶：細谷 龍男先生（日本内科学会監事・次々期会頭、東京慈恵会医科大学 腎臓・高血圧内科 教授）

企画1：(午後1時10分～2時35分)

司 会：滝口 裕一(千葉大学)、西岡 安彦(徳島大学)

1. 話題提供—実例から課題を提起—(10分)

帝京大学医学部内科学講座 腫瘍内科 准教授 関 順彦

2. 基調講演—腫瘍内科の必要性—(20分)

東京慈恵会医科大学内科学講座 腫瘍・血液内科 教授 相羽恵介

3. パネルディスカッション「腫瘍内科はなぜ必要か」(55分)

パネリスト：

相羽恵介(東京慈恵会医科大学内科学講座 腫瘍・血液内科 教授)

小嶋修一(TBSテレビ報道局ディレクター)

天野慎介(特定非営利活動法人グループ・ネクサス理事長・がん対策推進協議会委員)

村田善則(文部科学省高等教育局 医学教育課長)

郷内淳子(「患者発・宮城版退院時サポートプロジェクト」代表)

関 順彦(帝京大学医学部内科学講座 腫瘍内科 准教授)

前村 聡(日本経済新聞社東京本社 編集局社会部 記者)

(休憩 午後2時35分～2時50分)

企画2：(午後2時50分～3時00分)

司 会：醍醐 弥太郎(滋賀医科大学)

腫瘍内科教室紹介(10分)

近畿大学医学部内科学講座 腫瘍内科部門 教授 中川和彦

企画3：(午後3時00分～3時40分)

司 会：田村 和夫(福岡大学)

教育講演 —抗悪性腫瘍薬と臓器障害—

「薬剤性肺障害をめぐって」(40分)

日本内科学会理事

信州大学医学部内科学第一講座 教授 久保 恵嗣先生

閉会挨拶 高後 裕(旭川医科大学) (午後3時40分～)



腫瘍内科医はなぜ必要か

第3回

腫瘍内科医会セミナー

日時：平成24年 **4月15日** (日)
(日本内科学会総会・講演会会期中)

会場：京都市勧業館 みやこめっせ 地下1階 特別展示場
(京都市左京区岡崎成勝寺町9-1)

対象：日本内科学会または日本臨床腫瘍学会会員 (参加費無料)

プログラム

1. 腫瘍内科医会・総会 (午前11時～12時)
2. セミナー「腫瘍内科医はなぜ必要か」(午後1時～3時50分)

(午後1時10分～2時35分)

企画1

1. 話題提供—実例から課題を提起—
帝京大学医学部内科学講座 腫瘍内科 准教授 関 順彦
2. 基調講演—腫瘍内科の必要性—
東京慈恵会医科大学内科学講座 腫瘍・血液内科 教授 相羽恵介
3. パネルディスカッション「腫瘍内科はなぜ必要か」
相羽恵介 (東京慈恵会医科大学)、小嶋修一 (TBSテレビ報道局)、
天野慎介 (NPO法人グループ・ネクサス)、村田善則 (文部科学省高等教育局)、
郷内淳子 (患者発・宮城版退院時サポートプロジェクト)、関 順彦 (帝京大学)、
前村 聡 (日本経済新聞社) *五十音順で掲載しております。

(午後2時50分～3時00分)

企画2

- 腫瘍内科教室紹介
近畿大学医学部内科学講座 腫瘍内科部門 教授 中川和彦

(午後3時00分～3時40分)

企画3

- 教育講演—抗悪性腫瘍薬と臓器障害—
「薬剤性肺障害をめぐって」
日本内科学会理事 信州大学医学部内科学第一講座 教授 久保恵嗣 先生

主催

北海道の総合力を生かすプロ養成プログラム、北東北における総合的がん専門医療人の養成、東北がんプロフェッショナル養成プラン、関東広域多職種がん専門家チーム養成拠点、北陸がんプロフェッショナル養成プログラム、高度がん医療を先導する人材養成拠点の形成、6大学連携オンコロジーチーム養成プラン、銀の道で結ぶがん医療人養成コンソーシアム、中国・四国広域がんプロ養成プログラム、九州がんプロフェッショナル養成プラン、腫瘍内科医会 (平成24年4月から以下に変更予定)

北海道がん医療を担う医療人養成プログラム、東北がんプロフェッショナル養成推進プラン、国際協力型がん臨床指導者養成拠点、次世代がん治療推進専門家養成プラン、ICTと人で繋ぐがん医療革新プラン、がん多職種チーム医療者の体系的段階的養成、都市型がん医療連携を担う人材の実践的教育、北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プラン、次代を担うがん研究者・医療人養成プラン、7大学連携先端的がん教育基盤創造プラン、中国・四国高度がんプロ養成基盤プログラム、九州がんプロ養成基盤推進プラン、腫瘍内科医会

<お問い合わせ先>

東北がんプロフェッショナル養成プラン事務局

〒980-8574 仙台市青葉区星陵町1-1 東北大学病院西病棟2階 TEL:022-717-7087・8010 E-mail:ganpro@med.tohoku.ac.jp

第3回腫瘍内科医会セミナー

ランチョンセミナー開催のご案内

腫瘍内科医会運営委員

相羽 恵介、秋田 弘俊、*石岡 千加史、磯部 威、西條 康夫、
佐々木 康綱、白尾 国昭、柴田浩行、関 順彦、醍醐 弥太郎、
滝口 裕一、谷本光音、田村 和夫、鳥本 悦宏、中川 和彦、
南 博信、元雄 良治、矢野 聖二、西岡 安彦、柳原 一広、
吉岡 孝志（*運営委員代表）

2012年2月

関係各位

第3回腫瘍内科医会セミナー
運営委員代表 石岡 千加史
(東北大学加齢医学研究所 臨床腫瘍学分野)

第3回腫瘍内科医会セミナー ランチョンセミナー開催趣意書

謹啓 貴社におかれましては益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、この度、第3回腫瘍内科医会セミナーが2012年4月15日(日)に京都市みやこめっせにて開催されることになり、現在その準備を進めております。

「腫瘍内科医(medical oncologist)」は、がんの薬物療法を中心とする内科腫瘍学の専門家として、所属する大学や病院での活動はもとより、日本臨床腫瘍学会や文科省「がんプロ」の枠組みを通してがん薬物療法の普及や専門医の養成に日々努めております。当セミナーの参加対象は主に日本内科学会会員で、特に大学医学部または医学部附属病で腫瘍内科、臨床腫瘍学、化学療法センター、腫瘍センター等にご所属の先生方にご参加いただく予定です。

参加者にとってより充実したプログラムとするために、当セミナーにおきましてランチョンセミナーを開催したいと考えております。下記開催概要をご覧の上、是非ご協賛賜りたく、何卒宜しくお願い申し上げます。

謹白

【ランチョンセミナー開催概要】

- 会名 : 第3回腫瘍内科医会セミナー
- 運営委員代表 : 石岡 千加史 (東北大学加齢医学研究所 臨床腫瘍学分野 教授)
- 会期 : 2012年4月15日(日) .第109回日本内科学会総会・講演会開催期間中
- 会場 : 京都市勧業館 みやこめっせ
〒606-8343 京都市左京区岡崎成勝寺町9-1 Tel:075-762-2630
- 参加者数 : 約100名
- 名称 : ランチョンセミナー
- 開催日時 : 2012年4月15日(日)
- 使用会場 : 京都市勧業館 みやこめっせ 地下1階 特別展示場
(面積:370m² 席数:自由レイアウト可能。シアター形式の場合で130名程度)
- 共催費用 : なし
- 共催社負担 : ① 参加者の昼食(お弁当)
② 座長、講師への謝礼金・旅費・宿泊費
③ 控室での接遇飲食代
④ ポスター、チラシ等印刷制作物(共催企業の裁量により作成)
⑤ その他特殊な機材、看板、人件費等

第3回腫瘍内科医会 ランチオンセミナー

日 時：2012年 4月15日（日）
12:10～12:50

場 所：みやこめっせB1 特別展示場

京都市左京区岡崎成勝寺町9-1

TEL:075-762-2630

座長 滋賀医科大学病院 内科学講座

教授 藤山 佳秀先生

『血液腫瘍の細胞遺伝学と 分子標的治療』

京都府立医科大学大学院医学研究科

血液・腫瘍内科学 教授 谷脇 雅史先生

共催：第3回腫瘍内科医会 ・ 小野薬品工業株式会社

第3回腫瘍内科医会セミナー（平成24年4月15日（日）：京都市勧業館 みやこめっせにて開催予定）

各大学の経費分担の内訳表（平成24年4月11日時点）

承諾済欄

支払確定欄

No.	腫瘍内科医会 運営委員名	みやこめっせ 使用料	ポスター	講師 招聘・謝金	人員 (事務局)	運営委員 委員	第3回 小計	第3回(中 止)小計	第2回小計	第1回小計	3回分合計	備考
1	北海道大学	61,700					61,700	52,000	51,600	63,210	228,510	北海道大学
2	旭川医科大学※	61,700					61,700	52,000	51,600	—	165,300	旭川医科大学※
3	新潟大学 (一前:弘前大学)	61,700					61,700	52,000	51,600	55,600	220,900	新潟大学
4	秋田大学	61,700					61,700	52,000	60,200	25,200	199,100	秋田大学
5	東北大学			48,000	120,000	82,867	250,867	58,000	82,960	165,600	557,427	東北大学
6	山形大学	61,724					61,724	52,000	51,660	60,900	226,284	山形大学
7	千葉大学			48,000			48,000	0	105,000	—	153,000	千葉大学
8	埼玉医科大学						0	0	0	105,000	105,000	埼玉医科大学
9	金沢大学	61,700					61,700	0	60,900	60,900	183,500	金沢大学
10	金沢医科大学	61,700					61,700	0	—	—	61,700	金沢医科大学
11	京都大学		160,650				160,650	0	60,900	69,300	290,850	京都大学
12	滋賀医科大学		107,100				107,100	0	—	—	107,100	滋賀医科大学
13	近畿大学	61,700					61,700	0	52,500	52,500	166,700	近畿大学
14	神戸大学	61,700					61,700	0	62,502	45,150	169,352	神戸大学
15	鳥根大学			45,000			45,000	0	73,900	—	118,900	鳥根大学
16	徳島大学	61,700					61,700	0	51,975	—	113,675	徳島大学
17	岡山大学			63,000			63,000	0	—	—	63,000	岡山大学
18	福岡大学	61,700					61,700	0	69,012	72,850	203,562	福岡大学
19	大分大学	61,700					61,700	0	46,200	64,490	172,390	大分大学
20	東京慈恵会 医科大学	61,700					61,700	0	51,750	—	113,450	東京慈恵会 医科大学
21	帝京大学			45,000			45,000	0	60,690	44,100	149,790	帝京大学
経費別小計		802,124	267,750	249,000	120,000	82,867	1,521,741	※348,000	※1,044,949	※884,900		
みやこめっせへの 支払い:		802,124										

※第3回中止分については、震災により中止となったが、ポスター一代のみ支払済。その他の経費について
はキャンセルの為、負担額0円となる。

※新潟大学 西條先生→ 弘前大学から異動の為、新潟大学での負担総額は0となる。
※第1回～3回中止分の小計については、西條康夫先生(現新潟大学)が以前弘前大学から異動で、1回目～3回中止までの弘前大学負担額
については、含めた形で合計を記載

※第11回目：札幌医科大学・九州大学も参加していたが、2回目より参加がない為、記載なし

弘前大学負担額：55,650円

札幌医科大学負担額：55,650円

九州大学負担額：55,650円

※第2回：西條先生(第3回中止分)が、新潟大学へ異動の為、弘前大学負担分の経費記載なし

第2回弘前大学負担額：51,600円 → 弘前大学を除いた経費合計額：993,349円

※第3回震災のため中止になり、実際支払を済ませた経費は、ポスター一代、運営委員会費、人員(事務局)経費のみ支払

西條先生(第3回中止分)が、新潟大学へ異動の為、弘前大学負担分の経費記載なし

第3回中止分弘前大学負担額：52,000円 → 弘前大学を除いた経費合計額：296,000円

弘前大学プラスで348,000円(実際にかかった経費)

腫瘍内科医会新入会員及び会員数

新入会員 21名

飯田 哲也	長崎大学病院がん診療センター 助教
伊藤 薫樹	岩手医科大学 血液・腫瘍内科 准教授 腫瘍センター 副センター長
勝俣 範之	日本医科大学武蔵小杉病院腫瘍内科部長 教授
神野 正敏	奈良県立医科大学附属病院腫瘍センター センター長
北山 マキ子	大阪市立大学医学部看護学科
久保田 馨	日本医科大学付属病院 化学療法科部長・准教授
弦間 昭彦	日本医科大学内科学講座(呼吸器・感染・腫瘍部門) 教授
西條 長宏	特定非営利活動法人日本臨床腫瘍学会 特別顧問
堺田 恵美子	千葉大学大学院医学研究院 先端化学療法学 助教
関根 郁夫	千葉大学大学院医学研究院 先端化学療法学 准教授
下野 千草	和歌山県立医科大学附属病院腫瘍センター 助教
高野 淳	滋賀医科大学医学部附属病院腫瘍センター 特任助教
津端 由佳里	島根大学医学部附属病院呼吸器・化学療法内科 医員
西村 明子	神戸大学病院 腫瘍・血液内科 医員
久松 靖史	静岡県立静岡がんセンター レジデント
平本 秀二	三菱京都病院 腫瘍内科
細川 歩	富山大学附属病院 第三内科 講師
前田 猛	京都大学医学部附属病院 外来化学療法部
三輪 敏郎	富山大学付属病 医院臨床腫瘍部
李 仁	東北大学病院 腫瘍内科
吉村 明修	日本医科大学内科学講座(呼吸器・感染・腫瘍部門) 准教授

(50音順、敬称を略させて頂きました)

会員数

121名 (2012年4月15日現在)

腫瘍内科医会会則

(名称)

第1条 組織の名称は、腫瘍内科医会（本会と略す）とする。

(目的)

第2条 本会は、がん対策基本法、がん対策推進基本計画並びに文部科学省がんプロフェッショナル養成プランの趣旨を受け、社会的なニーズである腫瘍内科医養成への対応を行うために、全国の医科系大学医学部の腫瘍内科系講座、分野、診療科、センター、治療室等（以下、大学腫瘍内科系講座等）に所属する教員並びに本会の目的に賛同する個人が連携し、情報交換並びに諸活動を通じて、①日本内科学会の指定する8内科専門領域に、腫瘍内科を新たに設ける。②全国の国公立大学医学部への腫瘍内科学講座(分野)の設置を推進することを目的とする。また、医学部学生や大学院学生の腫瘍内科学(medical oncology)の教育・実習カリキュラム、卒後の腫瘍内科医の養成、腫瘍内科学に関する研究およびがん薬物療法を中心とする腫瘍内科の診療体制の確立、普及とその発展を目指すための事業を実施し、腫瘍内科学の発展を通してがん制圧に寄与する。

(事業)

第3条 本会は、第1条の目的を達成するため、次の事項に関わる事業を行う。

- (1) 大学腫瘍内科系講座等に所属する教員、及び本会の趣旨に賛同する個人間の情報交換並びに連携活動の推進
- (2) 日本内科学会との協力体制を構築し、新たな専門領域としての腫瘍内科の必要性をアピールする活動
- (3) 内科学、特に腫瘍内科学に関する教育、研究、診療の質の向上のための支援活動
- (4) がん薬物療法、がん緩和療法に関わる人材養成に向けた支援活動並びに、関連学会との連携活動
- (5) 内科領域の中での腫瘍内科の社会的ニーズを広報する活動
- (6) その他本会が必要とする事項

(会員)

第4条 本会の会員は正会員と準会員で構成される。

- (1) 正会員 日本内科学会会員で本会の目的に賛同する大学腫瘍内科系講座等に所属する教員
- (2) 準会員 本会の目的に賛同する個人で、総数は会員全体の4分の1を超えない

(入退会)

第5条 入会および退会は事務局に届ける。

(1) 正会員と準会員の入会および退会は運営委員会が決定し、総会が承認する。

(運営委員、代表、顧問)

第6条 本会に運営委員、代表、顧問を置く。

(1) 運営委員は、会員の中から総会で互選される。

(2) 代表は、運営委員会において運営委員の互選で選ばれた運営委員長が兼ねる。

(3) 代表を補佐するために、委員長が指名し、若干の副運営委員長をおくことができる。

(4) 運営委員会は、顧問をおくことができる。

(任期)

第7条 運営委員、顧問の任期は2年とする。

(1) 代表は連続して2期以上務めることはできない。

(2) 運営委員と顧問は再任ができる。

(会議)

第8条 本会は会議として運営委員会および総会を開催する。

(運営委員会)

第9条 運営委員会は事業、総会および会計等の本会の運営、学術活動、事業の企画などに必要な事項について協議し決定する。

(1) 運営委員会は運営委員によって構成される。

(2) 運営委員の中から互選で運営委員長を選出する。

(3) 運営委員長は本会の代表を兼ねる。

(4) 運営委員長は必要と認めたときに運営委員会を開催する。

(5) 運営委員会は運営委員の3分の1以上の合意で開催できる。

(6) 運営委員長は運営委員の中から運営副委員長を指名できる。

(7) 運営副委員長は運営委員長が任務に就けない場合にこれを代行する。

(8) 運営委員会は出席者数が運営委員の3分の1以上かつ出席者数と委任状数の合計数が運営委員の過半数をもって成立する。

(9) 委任状は書面または電子メール等により会の開催までに事務局へ提出する。

(10) 採決が必要な場合は、運営委員長を含めた出席者の過半数をもって決し、可否同数の場合は議長の決するところによる。

(作業部会)

第10条 運営委員会の下に作業部会を置くことができる。

(総会)

第 11 条 総会は本会の会則、事業、会計および運営委員会が必要と認める事項について協議し承認する。

(1) 総会は会員からなる。

(2) 総会は概ね年 1 回、日本内科学会会期中に開催される。

(3) 総会は運営委員会が必要と認めたときに開催できる。

(4) 総会は会員の 3 分の 1 以上の会員の合意によって運営委員会に開催させることができる。

(5) 総会の議長は会員の推薦により出席会員の中から選出する。

(6) 採決が必要な場合は、議長を含めた出席者の過半数をもって決し、可否同数の場合は議長の決するところによる。

(7) 採決の議決権は正会員が 1 票を有する。

(会費)

第 12 条 会員と準会員からの会費を別に定める細則により徴収することができる。

(会計)

第 13 条 本会の会計にかかる事項は運営委員会が決定し総会の承認を得る。

(事務局)

第 14 条 本会の事務局は、総会により決定した会員が担当する。

(1) 事務局は東北大学加齢医学研究所に設置し、本会の運営に必要な庶務を行う。

(会則の変更)

第 15 条 本会則は必要に応じて改正することができる

(1) 改正には総会の承認が必要である。

附則

この会則は、平成 21 年 7 月 1 日から施行する。

腫瘍内科医会会則改定案

(名称)

第1条 組織の名称は、腫瘍内科医会（本会と略す）とする。

(目的)

第2条 がん対策基本法、がん対策推進基本計画並びに文部科学省がんプロフェッショナル養成プランおよびがんプロフェッショナル養成基盤推進プランの趣旨を受け、社会的なニーズである腫瘍内科医養成への対応を行うために、全国の医科系大学医学部の腫瘍内科系講座、分野、診療科、センター、治療室等（以下、大学腫瘍内科系講座等）に所属する教員並びに本会の目的に賛同する個人が連携し、情報交換並びに諸活動を通じて、①日本内科学会の指定する8内科専門領域に、腫瘍内科を新たに設ける。②全国の国公立大学医学部への腫瘍内科学講座(分野)の設置を推進することを目的とする。また、医学部学生や大学院学生の腫瘍内科学(medical oncology)の教育・実習カリキュラム、卒後の腫瘍内科医の養成、腫瘍内科学に関する研究およびがん薬物療法を中心とする腫瘍内科の診療体制の確立、普及とその発展を目指すための事業を実施し、腫瘍内科学の発展を通してがん制圧に寄与する。

(事業)

第3条 本会は、第1条の目的を達成するため、次の事項に関わる事業を行う。

- (1) 大学腫瘍内科系講座等に所属する教員、及び本会の趣旨に賛同する個人間の情報交換並びに連携活動の推進
- (2) 日本内科学会との協力体制を構築し、新たな専門領域としての腫瘍内科の必要性をアピールする活動
- (3) 内科学、特に腫瘍内科学に関する教育、研究、診療の質の向上のための支援活動
- (4) がん薬物療法、がん緩和療法に関わる人材養成に向けた支援活動並びに、関連学会との連携活動
- (5) 内科領域の中での腫瘍内科の社会的ニーズを広報する活動
- (6) その他本会が必要とする事項

(会員)

第4条 本会の会員は正会員と準会員で構成される。

- (1) 正会員 日本内科学会会員で本会の目的に賛同する大学腫瘍内科系講座等に所属する教員
- (2) 準会員 本会の目的に賛同する個人で、総数は会員全体の4分の1を超えない

(入退会)

第5条 入会および退会は事務局に届ける。

(1) 正会員と準会員の入会および退会は運営委員会が決定し、総会が承認する。

(運営委員、代表、顧問)

第6条 本会に運営委員、代表、顧問を置く。

(1) 運営委員は、会員の中から総会で互選される。

(2) 代表は、運営委員会において運営委員の互選で選ばれた運営委員長が兼ねる。

(3) 代表を補佐するために、委員長が指名し、若干の副運営委員長をおくことができる。

(4) 運営委員会は、顧問をおくことができる。

(任期)

第7条 運営委員、顧問の任期は2年とする。

(1) 代表は連続して2期以上務めることはできない。

(2) 運営委員と顧問は再任ができる。

(会議)

第8条 本会は会議として運営委員会および総会を開催する。

(運営委員会)

第9条 運営委員会は事業、総会および会計等の本会の運営、学術活動、事業の企画などに必要な事項について協議し決定する。

(1) 運営委員会は運営委員によって構成される。

(2) 運営委員の中から互選で運営委員長を選出する。

(3) 運営委員長は本会の代表を兼ねる。

(4) 運営委員長は必要と認めたときに運営委員会を開催する。

(5) 運営委員会は運営委員の3分の1以上の合意で開催できる。

(6) 運営委員長は運営委員の中から運営副委員長を指名できる。

(7) 運営副委員長は運営委員長が任務に就けない場合にこれを代行する。

(8) 運営委員会は出席者数が運営委員の3分の1以上かつ出席者数と委任状数の合計数が運営委員の過半数をもって成立する。

(9) 委任状は書面または電子メール等により会の開催までに事務局へ提出する。

(10) 採決が必要な場合は、運営委員長を含めた出席者の過半数をもって決し、可否同数の場合は議長の決するところによる。

(作業部会)

第 10 条 運営委員会の下に作業部会を置くことができる。

(総会)

第 11 条 総会は本会の会則、事業、会計および運営委員会が必要と認める事項について協議し承認する。

(1) 総会は会員からなる。

(2) 総会は概ね年 1 回、日本内科学会会期中に開催される。

(3) 総会は運営委員会が必要と認めたときに開催できる。

(4) 総会は会員の 3 分の 1 以上の会員の合意によって運営委員会に開催させることができる。

(5) 総会の議長は会員の推薦により出席会員の中から選出する。

(6) 採決が必要な場合は、議長を含めた出席者の過半数をもって決し、可否同数の場合は議長の決するところによる。

(7) 採決の議決権は正会員が 1 票を有する。

(会費)

第 12 条 会員と準会員からの会費を別に定める細則により徴収することができる。

(会計)

第 13 条 本会の会計にかかる事項は運営委員会が決定し総会の承認を得る。

(事務局)

第 14 条 本会の事務局は、総会により決定した会員が担当する。

(1) 事務局は東北大学加齢医学研究所に設置し、本会の運営に必要な庶務を行う。

(会則の変更)

第 15 条 本会則は必要に応じて改正することができる

(1) 改正には総会の承認が必要である。

附則

この会則は、平成 21 年 7 月 1 日から施行する。

改定 平成 24 年 4 月 15 日

腫瘍内科医会会則会費案

細 則 (案)

- 第1条 会費は年3,000円とする。
但し、3年分を一括して納入する場合は、3年分を8,000円とする。

この細則は、平成24年4月15日から施行する。